

# 離島漁業再生支援交付金の実施状況

## ○離島漁業再生支援交付金

漁業・漁村は生産だけでなく、自然環境の保全や海難救助などの多面的な機能を持っていますが、離島は本土に比べ生産資材の調達などの面で不利な条件にあります。また、漁業者の減少や高齢化が進行しています。

このため、離島の漁業集落が行う「漁場の生産力の向上の取組」や「漁業の再生に関する実践的な取組」等への支援を通じ、離島漁業の再生を図ることを目的とした「離島漁業再生支援交付金制度」が発足しました。

平成 17 年から 21 年度までの第 1 期、平成 22 年度から平成 26 年度までの第 2 期が終了し、平成 27 年度から第 3 期が始まり令和元年まで実施いたしました。

県内では当村、佐渡の 2 つの離島で、漁業集落ごとに集落協定が結ばれ、その協定に基づいた様々な取組が行われました。

## ○粟島浦村の実施状況

漁業センサスに定義されている漁業世帯が複数まとまり漁業集落を形成し、当村では 1 つの集落協定が締結されています。

主な「漁場の生産力の向上の取組」は、毎年ヒラメ稚魚・アワビ稚貝等の放流やナマコの増殖を図るなど、藻場造成及びモニタリング、アワビ・サザエの資源保護のための漁場監視を行っています。

主な「漁場の再生に関する実践的な取組」は、  
令和元年度： 鮮魚の質を高める目的の資材購入、流通体制強化のための、鮮魚保存用大型容器購入をしました。また、「魚祭」「朝市」の実施や首都圏への販路拡大を図るため、「離島キッチン日本橋店」（飲食店型アンテナショップ）と提携して、粟島の鮮魚の魅力や美味しさを発信しました。

平成 30 年度： 真鯛・アマダイ・ノドグロ・寒ブリにタグを取り付けてブランド化推進。流通体制強化のための運搬用トラックのリース購入、鮮魚保存用大型容器購入をしました。また、「マグロまつり」を開催し、漁協・観光協会・行政と一体となって、県外へ粟島のマグロの美味しさを発信しました。

平成 29 年度： 底建網の普及を図るため、底建網漁業の先進地視察を実施しました。小アジやイワシの大量出荷に対応できるよう CB コンテナ、ダンベ購入。労働力緩和と鮮魚保持のためアルミローラー、プラスチックパレットを購入しました。また、観光客の拡大と粟島産マグロの PR を図るため、「粟島マグロ解体イベント」を実施しました。